

令和6年度 授業評価結果

1 授業評価の目的

千葉県立野田看護専門学校では、教育の質の向上を図るため「授業評価」を行っています。授業評価は、非常勤講師・専任教員が実施した授業について、学生からの授業評価結果をもとに教育水準の維持・向上や創意工夫ある教育の追及を行い、教育の質の向上に反映させることを目的としています。

2 授業評価の実施方法

本校では平成21年度から授業評価に取り組んでいます。思案を重ね平成28年4月1日から、現行の評価項目（非常勤講師は6項目、専任教員は9項目）に対して、4段階の評価尺度（とてもそう思う・まあまあそう思う・あまりそう思わない・全くそう思わない）で実施しています。学生は、授業終了後に授業評価の目的・個人情報保護等について説明を受け、アンケートに回答しています。また、令和4年度から電子ネットワークシステムを取り入れ、すべての評価票配布・回答収集・集計をペーパーレス化、令和6年度から回収率の向上のため、Wi-Fiを時間指定で開放しました。

評価結果は、専任教員にフィードバックされ、授業開発に役立てられています。また、年度末には総合的な評価を行い、次年度の課題の明確化とカリキュラムの改善に活用しています。結果の公表にあたっては、学生・非常勤講師・専任教員に倫理的配慮の説明を行っています。

3 授業評価集計結果（両学科）

令和6年度の授業評価結果においては、昨年度に引き続き一部リモート授業を含めた結果になっています。臨地実習評価も、一部学内実習を含んでいます。

1) 非常勤講師

実施件数:91件 平均回収率:59.2%

評 価 項 目	平均値
1. この授業はシラバスに沿って行われていた。	3.5
2. 授業内容は適切であった。	3.4
3. 授業方法は適切であった。	3.4
4. 学生を尊重した対応であった。	3.4
5. 総合的にこの授業に満足できた。	3.4
6. あなた自身はこの授業に積極的に参加できた。	3.5
総平均値	3.4

2) 専任教員

実施件数:54 件 平均回収率:47.9%

評 価 項 目	平均値
1. 教育理念・教育目標との一貫性があった。	3.6
2. この授業は授業計画（シラバス・時間数）に沿って行われていた。	3.6
3. この授業の学習内容やレベルや量は適切であった。	3.5
4. 事例や課題は思考を深めるために役立った。	3.6
5. 授業の進行や時間配分は適切であった。	3.5
6. 学生の質問や意見を尊重し、反応や理解度に合わせて対応した。	3.5
7. 内容を理解し、学習目標を達成できた。	3.5
8. この授業に積極的に参加できた。	3.6
9. 総合的にこの授業は満足できた。	3.5
総平均値	3.5

3) 臨地実習

実施件数:20 件 平均回収率:73.7%

評 価 項 目		平均値
Ⅰ. 自身の実習への取り組み	1. 患者、家族や医療スタッフ、実習指導者との関係を築きながら実習を展開できた	3.5
	2. 日々の学習を振り返り、積み重ねながら学習できた	3.5
	3. ビジョンゴールに向かい、自分を高める努力をした	3.5
	4. グループメンバー間で協力をしながら互いに高めあうことができた	3.6
Ⅱ. ツールをうまく活用できたか	5. 実習目標を達成するために必要な学習体験ができた	3.6
	6. 実習を進めるうえで、ルーブリック・ポートフォリオ・リフレクションノートを活用できた	3.4
	7. オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った（実習オリ、病棟オリなど）	3.5
Ⅳ. 教員のかかわり	8. 自ら考え行動するための支援が得られた	3.5
	9. 行動や態度から看護者としてのあり方を学べた	3.5
Ⅳ. 指導者のかかわり	10. 自ら考え行動するための支援が得られた	3.5
	11. 行動や態度から看護者としてのあり方を学べた	3.6
Ⅴ. 実習環境	12. 学生のための環境（物品・資料・場所）は確保されていた	3.6
	13. 実習しやすい環境（人的）だった	3.5
Ⅵ. 総合評価	14. 全体として、充実した実習だった	3.5
総平均値		3.5

4 授業評価結果・まとめ

1) 評価結果

非常勤講師については、平均回収率が 59.2%であり昨年度より 5.3%上昇した。
評価結果の総平均値は 3.4 であり 0.2 ポイント下降した。

専任教員については、平均回収率が 49.7%であり昨年度より 3.7%下降した。
評価結果の総平均値は 3.5 であり昨年と同様であった。

臨地実習については、平均回収率が 73.7%であり昨年度より 8.7%下降した。
評価結果の総平均値は 3.5 であり昨年度より 0.1%下降した。

2) まとめ

非常勤講師・専任教員・臨地実習の総平均値は 3.4 以上であることから、概ね学生の学習目標は達成していると考ええる。しかし今年度は、昨年度よりも回収率が低下しており、全体的に総平均値も低下した。回収率については、アンケートの個人情報保護に対する認識不足などが低下につながる 1 つの要因だと考えられる。また、近年は学生数の低下や学生背景も様々であることから、評価項目に対する理解や捉え方に個人差があることが影響していると推察する。よって、回収率の向上に向けて様々な方向から検討することが必要である。また引き続き学生の背景や状況に応じた授業展開や実習指導を意識し、理解や満足が得られるよう工夫していく。

5 次年度の課題

1) 授業評価設問内容の検討

2) 回収率向上に向けての検討

- ①学生のアンケートに関する意見を聞いていく。
- ②アンケート目的と協力依頼を実施していく。